公益社団法人 生態系トラスト協会

住所:高知県高岡郡四万十町大正31-1 連絡先:050-8800-2816 代表者:中村滝男

事業名

外来種サンジャクの繁殖情報収集・繁殖期の捕獲&移送実験

補助対象事業区分:自然環境を守る取組

事業目的

外来種・サンジャクの日本での繁殖情報は、営巣時期・営巣環境・産卵数・子育ての状況も含めてほとんど知られ ていない。これまでの調査で知りえた調査協力者や一般からの営巣情報を収集し、営巣地が明らかになった場合、 営巣地の周辺で、鳴き声やおとりを使っておびき寄せて捕獲できるかどうか実験を行う。また、捕獲できた場合、引き 続いて飼育実験を行い、受取条件が整い次第、移送実験を行う。

事業概要

事業区分:一般事業

県補助金:500千円(総事業費593千円)

実施期間:令和4年5月12日~令和5年3月31日

施行場所:四万十町 他高知県西部

事業内容

公開観察会の開催 :2022年6月4日(土)、7月9日(土) 黒潮町佐賀新港

サンジャクチラシの作成・配布 :2000部発行 送付先:211件

:2022年8月24日、2023年2月7日 対策検討会の開催 サンジャクの生息調査 : 高知県西部を中心に実施

結果と分析

外来鳥サンジャクの生息が確認されている黒潮町鹿島において、一般からの参加 者を募り公開観察会を2022年6月4日と7月9日の2回開催した。その様子はテレビや 新聞でも紹介され、広く県民にサンジャクの実態についての周知を図ることが出来た。

サンジャクの分布が県内で急拡大していることと、サンジャクの目撃情報についての 情報提供を求めるチラシを作成し、県内各所に配布することにより、広く普及啓発を図 ることが出来た。

また、無人島である鹿島に数回調査に渡り、センサーカメラを活用してサンジャクの 画像を撮影することが出来た。確認されたのは親鳥と幼鳥らしき数羽であり、サンジャク が野生繁殖されていることを裏付ける貴重な資料を得ることが出来た。



日本初!!野生繁殖が確認された外来種のサンジャクの親子(左幼鳥、右親鳥)

ネイチャーセンターで飼育していたサンジャク2羽を高知市内の動物園「わんぱーく こうち」へ移送した。これにより、サンジャクの生態把握がより深まるものと期待する。

<第1回外来種・サンジャク学習会>





証拠の写真まで撮影されました。侵略的な外来種であるサンジャクの急拡大を

電話/fax 0880-29-4011 センター外館の場合 090-3180-3514 (中村携帯) 裏は今前4年第4日原書外で規範づくり対分を制象監察機能や全を付けて実際されています。

今後の取組に向けて

外来鳥サンジャクが野生で繁殖していることは明らかであるが、営巣地は確認できておらず、生態については不明な点か多 い。サンジャクの四国内へのまん延を防止するためには、さらなる生態把握のための調査が必要である。

団体名 東洋町ブルーカーボンイノベーション研究会

住所:高知県安芸郡東洋町甲浦 708-18 連絡先: 0887-29-3566 代表者: 福井宣博

ブルーカーボン生態系による地域づくり活動

補助対象事業区分 : 自然環境を守る取組

事業目的ブルーカーボン生態系によって藻場が持つ地球温暖化防止としての視点を柱に 再生事業の体験教育を行い、再生した海藻を地域の事業者や団体と協働し、新たな産業 変革をもたらす事業を行う。

事業概要

事業区分: 自然環境を守る取組

県補助金: 500 千円 (総事業費 516 千円)

実施期間: 令和4年5月12日~令和5年2月28日

施行場所: 東洋町甲浦





藻 場のモニタリング調 査(人材 育成) ブルーカーボンイノベーションシンポジウム(起業家の創出)

事業内容





ブルーカー ボン生態系 を学び、体 験すること で地域内に 環境保護 活動の関心 を高める事 を目的に甲

浦中学校一年生と専門家(島袋氏)を講師として座学、体験学習を開催した。座学は6月 20日午後から二時限、生態系の仕組みと海藻の種類や役割などを学んだ。





8月には三回に分けて海洋実習を開催し藻場モニタリング調査を行い、海藻の採集し押藻図鑑を作成した。

当初、家族参加型を計画したがコロナ禍の中では父兄や学校の賛同が得られず生徒、教員での開催とした。II 月に文化発表会の中で「海藻から地球温暖化を考える」という演目で参加者よりブルーカーボンによる環境保全活動の推進が提言された。



令和5年2月「ブルーカーボンイノベーションシンポジウム」を開催した。このシンポジウムでは海洋環境を保全することで新しいビジネスモデルを作り上げたスタートアップ起業者に取り組み内容を発表してもらい、傍聴者とディスカッションを行うことを目的とした。会場傍聴者24名、オンライン参加者22名からも多くの質問を受け、SDGsに対する関心が高いことが解った。

結果と分析

今回の事業目的はブルーカーボン生態系による人材育成と起業家の創出である。人材育成事業は次世代である中学生を対象に専門家である学者や事業者など経験豊富な大人と接することで環境課題を理解し、総合的かつ横断的に解決策を考える探求力を身につけ、結果、今まで身近であった海に対して多角的方面から物事を考え、解決策を自ら導き出す能力を養ったと教員より評価を得た。

また起業家の創出事業では登壇者の取り組む事業は、自然の恵みによって成り立っている自然資本の持続可能性を考慮したビジネスモデルであり、地域経済を含む地域全体の持続可能性を支えていることを知り、このようなスタイルの新たなモデルを作り出したいという傍聴者意見もあった。

このような取組が令和4年度ふるさとのいのちをつなぐ生物多様性こうちプラン大賞にて奨励賞を授与された。

今後の取組に向けて

次年度以降も引き続き人材育成、創出事業を継続し、地域の自然資本を活用した事業で利益を生み出し、生まれた利益を自然資本に投資するような事業を推進するための取組を支援する体制作りを関係者と協働して強化していく。

団体名 こうちミュージアムネットワーク

住所:高知県高知市追手筋 2-7-5 連絡先:088-871-1629 代表者:筒井 秀一

事業名

高知県自然史科学標本保護事業

補助対象事業区分: 自然環境を守る取組

事業目的

高知県内に存在する自然史科学標本について、散逸と県外流失を防ぐために、緊急避難的に適切な保管管理ができる体制と設備を整備し、高知県における自然史科学情報の証拠として利用するとともに、県民および県外者が高知県の自然史科学研究および学習に活用できる方法を検討することが目的である。

事業概要

事業区分: 自然環境を守る取組

県補助金: 500 千円 (総事業費 500,005 円) 実施期間: 令和4年7月6日~令和5年3月15日

施行場所 : 県下全域

事業内容

高知県内に現存する自然史科学標本について、散逸と県外流失を防ぎ、緊急避難的に適切な保管管理ができる体制と設備を整備し、高知県における自然史科学情報の証拠として利用するとともに、県民および県外者が高知県の自然史科学研究および学習に活用できる方法を検討した。





結果と分析

県内には収蔵すべきと考える標本コレクションが新たに4件確認できた。これらのうち、I件は現状でこの先IO年以上維持できそうであった。一方、他3件は現状を今後5年以上維持することは難しく、保存にはしかるべき施設と体制が必要な状況であった。

これらの情報を含め、高知県における生物標本の現状を、日本博物館協会第70回全国博物館大会において全国へ発信した。

令和3年度の標本調査によりレスキューが必要であったコレクションの一つを、既存施設に 寄託で受け入れていただき、その館において新着資料展で紹介いただいた。

今後、レスキューが必要な標本コレクションが出現したときに対応できるように、大型冷凍庫 を低温殺虫用に購入し、防虫剤、防湿材、運搬時の遮光用資材を整備した。

今後の取組に向けて

多様な生物分野の標本について、その情報を高知県と共有し、必要があればレスキュー活動を展開する。これらの活動を広く県民の皆様へ普及啓発して、「高知県内の自然史科学標本について今後どのように扱って行けば良いのか」について、様々な立場、地域の方々と検討していこうと考えている。

団体名 三嶺の森をまもるみんなの会

住所: 〒781-5233 香南市野市町大谷 698-1

連絡先: 三嶺の森をまもるみんなの会 代表者: 依光 良三

事業名

三嶺の森再生事業

補助対象事業区分: 自然環境を守る取組

事業目的

シカの食害によって大きなダメージを受けた三嶺の森の再生を図る。併せて、生物多様性維持の観点から絶滅危惧地域個体群のツキノワグマのエサとなるブナ、ミズナラ等の次世代を育成する「熊の森づくり」も促進する。

事業概要

事業区分: 一般事業

県補助金: 302 千円 (総事業費 303 千円) 実施期間: 令和 4 年 7 月6日~令和 4 年 10 月 3 1 日

施行場所: 香美市物部町三嶺山系みやびの丘

事業内容

ボランティア 68 名、森林管理署・局職員 17 名の参加により、三嶺山系のみやびの丘において、既設の防鹿柵の周辺に新たに防鹿柵を 307m設置した。





結果と分析

みやびの丘南面においては、今回の設置でボランティア活動として可能な範囲はほぼ防鹿柵で囲うことができた。これまで設置した防鹿柵の効果は大きく、既設のネット内はササや低木層が回復しつつあり、その中には絶滅危惧種ハスノハイチゴも確認されている。一部ではブナやミズナラの植栽もしており、ササ、低木層、高木層を含めた多様な森の回復が期待できる。

今後の取組に向けて

みやびの丘では南面以外の東面や西面の斜面でもシカの被害が顕著で、防鹿柵の設置が必要な状況である。今後とも計画的に防鹿柵を拡張していく。また、みやびの丘はアプローチが容易なことから、環境教育の場としても活用を図っていく。

団体名 横倉山自然の森博物館友の会『フォレスト・クラブ』

住所:高知県高岡郡越知町越知丙 737-12 連絡先:0889-26-1060 代表者:高橋正児

事業名

標本を作るひとをつくる

補助対象事業区分: 自然環境を守る取り組み

事業目的

動物の標本づくりをしている人と標本づくりの技術を知りたい人をつなぐことにより、 地域の自然史を残せる人材をつくること。

事業概要

事業区分: 自然環境を守る取り組み

県補助金: 448千円 (総事業費 448千円) 実施期間:令和4年6月8日~令和5年3月31日 施行場所:横倉山自然の森博物館、明治東部公民館

事業内容

越知町の明治東部公民館を会場として標本作製にまつわる技術を多くの人に伝えるため標本作製講座を開催した。また、機材などをそろえることで継続して標本作製講座が行える環境を整えた。作製した標本は横倉山自然の森博物館で展示活用することで環境学習活動に寄与している。





結果と分析

講座を開催することにより標本づくりに興味を持つ人への技術伝搬ができた事。 また機材をそろえることで環境を整えることができた事。成果物を子供向けの出張 キットの形で展示活用し、環境学習活動に力添えできた事は評価点である。しかしな がら新型コロナ感染拡大の影響による講座参加のキャンセル、開催場所までのアク セスの問題による参加者数の伸び悩み、想定外の大雪で講座が中止になるなどさま ざまな問題があった。今後は初期の人員導入として高知市内など人口の多い土地で 会場を借りて講座を行うといった工夫が必要ではないかと考えられる。

今後の取組に向けて

本事業などでそろえた物品を活用して継続して標本作製に関する技術伝搬を行うとともに、成果物の展示、研究活用を続けていく予定である。

団体名 ジンデ池生物研究所

住所: 須崎市上分乙 | 17 | 連絡先: 080-1993-0982 代表者: 植村 優人

事業名

ジンデ池の生物多様性を未来につなぐ保全活動

補助対象事業区分: 自然環境を守る取組

事業目的

須崎市安和地区にあるため池、通称「ジンデ池」の豊かな生物の生息場所を守りさらに多くのトンボが飛来する池にするためジンデ池生物研究所や地域住民児童、その他多くの方と一緒に生物多様性の大切さについて学び、協力して保全活動を行う。

事業概要

事業区分: 一般事業

県補助金: 483 千円 (総事業費 488千円) 実施期間: 令和4年 II 月8日~令和5年 I 月29日

施行場所 : 須崎市安和

事業内容

ジンデ池は2019年からの調査でトンボ45種とその他の生物も多く確認されている生物多様性の豊かな場所であるが長年放置されてきたため、全面にショウブが繁茂し、周りの樹木が伸びて池全体が暗くなり、環境が単調になりつつあるため、整備をして多様な環境を作る。希少になった里山の止水域にいる水生生物の生息域を守るのを目的に、① 開放水面環境を作る②周りの木を間伐、剪定して明るい場所を作る③アカトンボ類の産卵場所を作る、の3つを参加者で協力して進めた。また、地元安和小学校の児童が総合の時間を活用して参加したので、子ども達とトンボのヤゴの採集をして生物観察会も行った。

結果と分析

総勢50名ほどの参加となり、目標としていた作業全て終えることができた。 小中高校生の子ども達、大学生、地域住民など幅広い多くの人で生物多様性 を守るための保全活動が実践でき、交流の場になったのは有意義であった。 地元小学生から「貴重な生き物がいる所が地域にあるとわかって良かった」 や住民の方からも「ジンデ池に価値を見出してくれて感謝している」との 感想をもらった。この活動を通して池が地域に大切な場所になればと思う。

今後の取組に向けて

今回の保全活動で行った作業が生き物にとってどのような影響があるのか、また次回の保全活動の計画につなげていくため、引き続き調査研究、検証を行う。これからも環境整備活動や生き物探し等のイベントを企画し、生物多様性の楽しさ大切さを広めていきたい。





